資料４

農畜産業における燃油、肥料、飼料等の価格高騰の現状と対策について

【農　業】

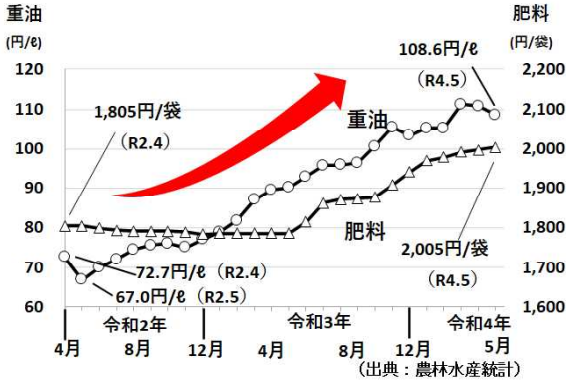
１　現状

（１）重油

原油価格の上昇に伴い、重油価格も上昇し、令和４年５月の農業物価統計価格は、108.6 円/ℓ（令和３年１月と比較し 29.6 円/ℓ上昇）

（２）肥料

化学肥料はほぼ全量を輸入に依存しており、今後も肥料価格はさらに上昇する見込み。



（出典：農林水産統計）

（３）被覆資材等

原料となるナフサ価格の上昇に伴い、ビニル・ポリ等の農業資材価格は上昇傾向。

国産ナフサ価格の推移　（単位：円/kℓ）

	2021年				2022年
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期
平均価格	38,800	47,700	53,500	60,700	64,600
価格上昇率 ※	124%	123%	112%	113%	106%

※　対前四半期比

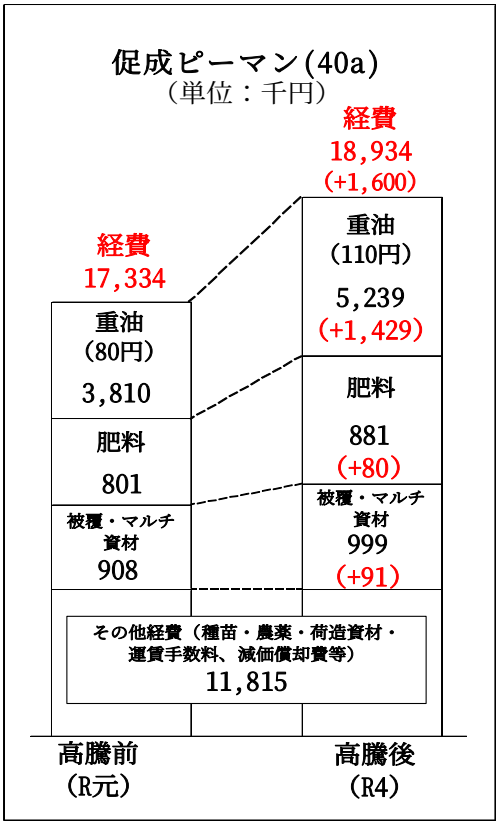
２　農業経営への影響（試算）

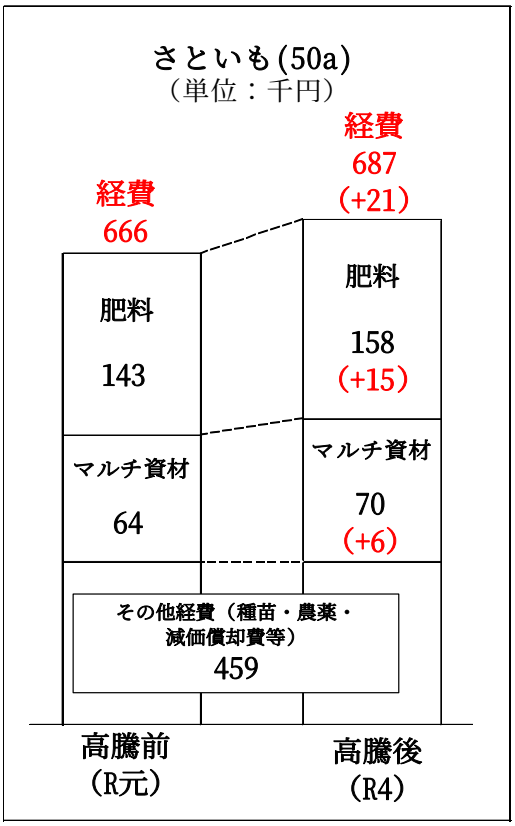
（１）促成ピーマン（40a）の場合

高騰前と比較して、重油が1,429千円増、肥料が80千円増、被覆等資材が91千円増となり、全体経費は1,600千円増加。

（２）さといも（50a）の場合

高騰前と比較して、肥料が15千円増、マルチ資材が６千円増となり、全体経費は21千円増加。





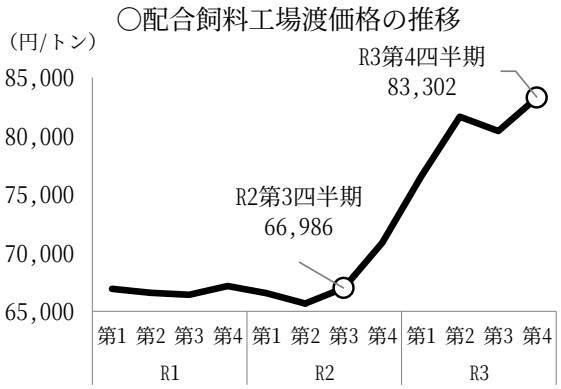
【畜産業】

1　現状

令和２年10月以降、とうもろこしなどの飼料穀物の国際価格が上昇したことにより、配合飼料価格は高騰。令和３年以降は、ウクライナ情勢や円安の影響などにより更に高騰が続く。

令和２年度第３四半期には66,986円/トンだった配合飼料工場渡価格が、令和３年度第４四半期に83,302円/トンとなっている。

（参考：令和４年４月　88,569円/トン）

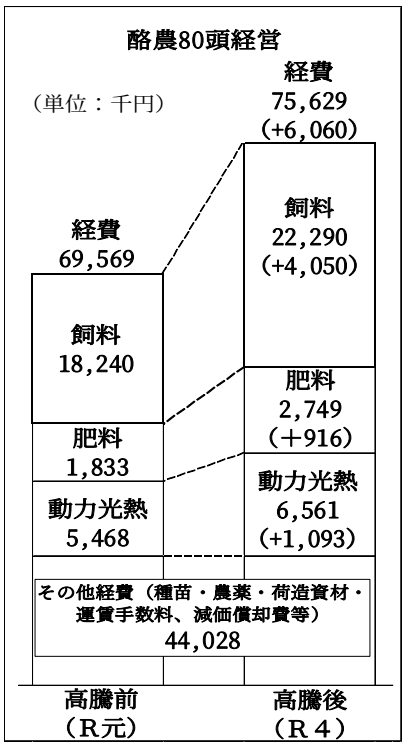
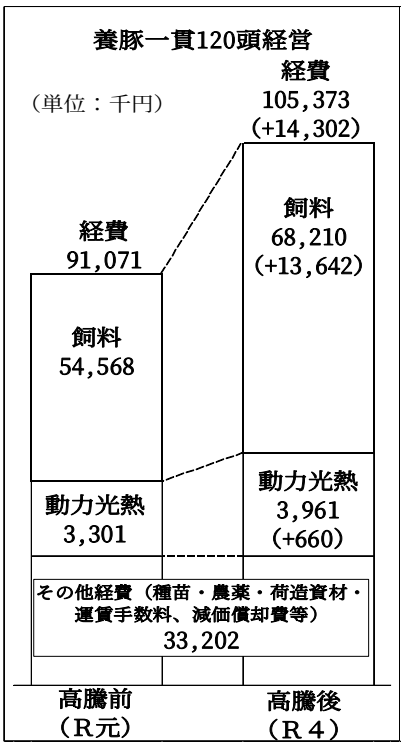
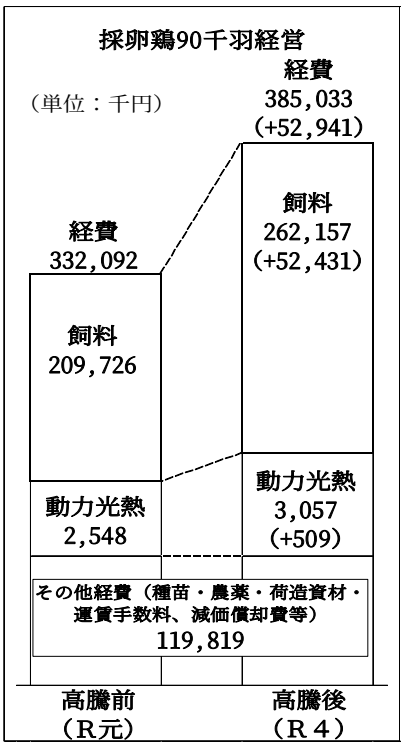


資料：（公社）配合飼料供給安定機構「飼料月報」

2　畜産経営への影響（試算）

生産コストに占める飼料費の割合は、酪農及び肉用牛経営で３～５割、養豚及び養鶏経営で約６割と高く、飼料価格の高騰は経営に直結する。

○　酪農80頭経営では、高騰前と比較して、飼料が4,050千円増、肥料が916千円増、動力光熱が1,093千円増となり、全体経費は6,060千円増加。

○　養豚一貫120頭経営では、高騰前と比較して、飼料が13,642千円増、動力光熱が660千円増となり、全体経費は14,302千円増加。

○　採卵鶏90千羽経営では、高騰前と比較して、飼料が52,431千円増、動力光熱が509千円増となり、全体経費は52,941千円増加。